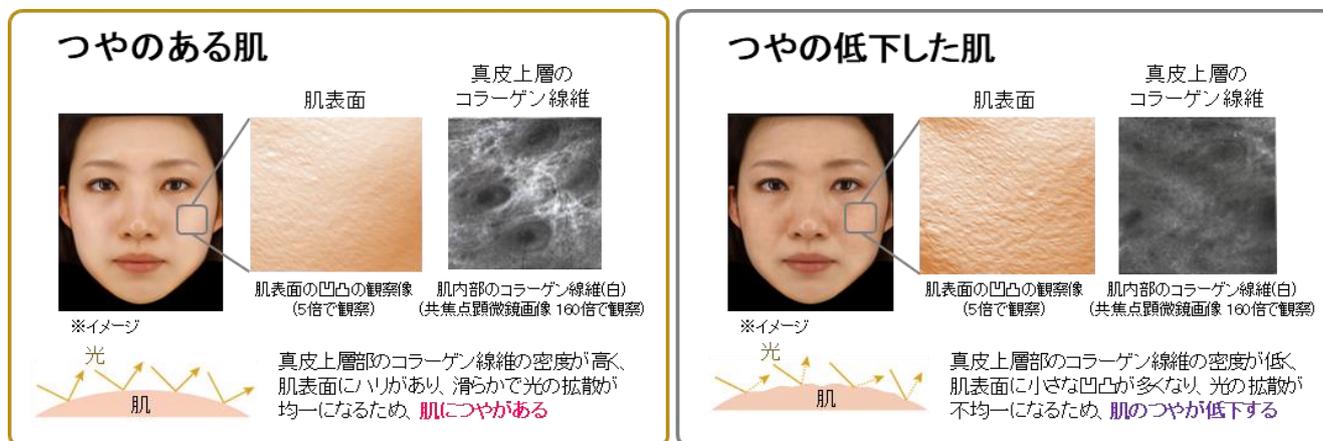
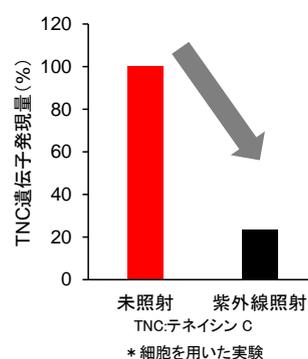


日本メナード化粧品、肌の老化は「つや」の低下から始まる！ 真皮上層部のテネイシン C の減少をきっかけに光老化が進行する

日本メナード化粧品株式会社(名古屋市中区丸の内 3-18-15、代表取締役社長:野々川純一)は、肌の老化の約 80%を占めるといわれる紫外線による老化(光老化)の初期段階において、真皮の上層部(乳頭層)で「テネイシン C」と呼ばれる糖タンパク質が減少し、それに伴いコラーゲン線維も減少することで、肌の「つや」や「ハリ」がなくなることを見出しました。つまり、「つや」「ハリ」の低下は、光老化が始まっている兆しであることが分かりました。また、カサブランカの若いつぼみから抽出したエキスに、テネイシン C の減少を抑制する効果があることを見出しました。

① 真皮のコラーゲン線維の構築に関わる「テネイシン C」と光老化による減少

光老化は、繰り返し紫外線を浴びることによって起きる肌の老化で、進行するとシワ・たるみが生じます。今回メナードでは、真皮の上層部(乳頭層)において特異的に発現する「テネイシン C」と呼ばれる糖タンパク質がコラーゲン線維の構築に大きく関わっていることを見出しました。また、光老化の初期段階において、このテネイシン C が減少し、コラーゲン線維の構築を停滞させることで、肌の「つや」や「ハリ」を低下させることが分かりました。つまり、光老化のはじまりは、テネイシン C の減少をきっかけとして、「つや」「ハリ」から「シワ」「たるみ」へと進行していくと考えられました。



② テネイシン C の減少を抑える「カサブランカ」

さらにメナードは、ユリ科の植物「カサブランカ」の若いつぼみから抽出したエキスに、紫外線によるテネイシン C の減少を抑える効果を見出しました。今後メナードでは、これらの研究成果を、光老化の進行を防ぎ、シワ・たるみを防ぐ、エイジングケア化粧品の開発へ応用していきます。

なお、本研究の成果は、2020年10月21日～30日に開催される「第31回国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)学術大会」(Web開催)にて発表いたします。



カサブランカの花とつぼみ

□ 研究内容に関する問い合わせ先

日本メナード化粧品(株)総合研究所(名古屋市中区鳥見町 2-7)

TEL:052-531-6263 Mail:k-info@menard.co.jp 吉岡・田中(研究内容) 福永(資料)